

1 開会【青木教頭】

2 校長挨拶【小島校長】

○学校概況について

- ・コロナ禍からの脱却と学校の通常化傾向
- ・定員充足率も厳しい状態
- ・部活動は、特にレスリング部で3年深澤が世界大会出場、アーチェリー部も成果を上げている。
- ・コミュニティースクールとしての活動も6年目を迎える今後も委員の皆様には協力願いたい。

3 県教育委員会あいさつ及び委員任命

【高校教育課：藤沢指導主事】

○学校と子ども達を取り巻く環境の変化と複雑化について

○学校運営協議会の設置とその活動について

- ・地域とともにある学校の在り方
- ・学校運営協議会の設置と活動の経緯…馬頭高校は平成30年度から最初に設置した学校、現在6。

4 自己紹介

○名簿順 資料1頁参照

- ・【学校運営協議会委員】→【教育委員会】→【事務局】

5 会長及び副会長選任【教頭司会】

○委員互選（会長→若園様 副会長→吉成様）

6 議事<これより会長・副会長による進行>

（1）学校運慶協議会の役割【教頭説明】

○資料2頁（栃木県立馬頭高等学校 学校運営協議会 会則）参照

- ・任期について説明…今年度末が任期切れ、今年度からの人は来年末まで。

（2）令和4年度学校運営協議会活動報告 【教頭説明】

○資料3～5頁（学校運営活動状況報告書）参照

- ・昨年度年4回の運営協議会の概略について
- ・協議会での主な意見について…特に：公営塾についての検討→ワーキンググループ、高校魅力化プロジェクト委員会での検討→今年度もゼロベースでの検討を続ける

（3）令和5年度学校経営方針及び重点目標について

学校経営方針について 【校長説明】

○資料6～8頁参照

- ・I 学校の存在意義（スクールミッション）について…県教委との検討中。
（昨年度、学校提案） 地域社会に貢献する人材の育成

(今年度、学校再提案) 地域と連携した普通科の那珂川学や水産科の専門的学習をはじめ、個々を大切に
する学びを通して、地域社会を支える人を育成する学校

→スクールミッション後にスクールポリシーの検討になる。

- ・IV-2-(1) について…昨年度では「チャイム to チャイム」の授業実施とのことであったが、
学校も落ち着いてきていることから一歩進めて「学びに向かう～」 「意欲的に～」と修正した。
- ・IV-3-(2) について…本年度よりスクールカウンセラーに加え、スクールソーシャルワーカー
(県北地域の配置拠点校)、通級指導が本校でも始まるなど本年度は土台をしっかりと作り、来年度か
らの次のステップへ進めるようにしていきたい。
- ・IV-6 について…地域連携に関しては、委員の皆様におかれましては本年度もよろしくお願いいたします。

《質疑》

【吉成委員】IV-3-(2) の所で特別支援教育についての言及があった。「通級指導の体制が整った」
という文言を明記してはどうか。

【益子委員】通級指導に関しては SSW r 設置も含めて、全県施策の中で馬頭高校に設置されているので
速やかに体制構築に努めてほしいと思います。

【小島校長】次に説明する重点目標の中で「通級指導」について記述している。学校経営方針にも追記し
する方向で考える。IV-2「生徒指導」、もしくはIV-1「学校運営全般」のどちらかが適当
と思われる。

【若園会長】この件について即断は難しいので学校側に一任する。

【若園会長】スクールミッションについて、普通科の那珂川学と水産科の専門的学習と2本立てになっ
ているのが、馬頭高校らしさが出ていると思います。

【小島校長】「個々を大切にする」というところに表面に出ませんが、SC や SSW r、通級指導といった
いろいろな相談体制も本校の特色だという職員の思いも入っている。

重点目標について 【校長説明】

○資料9頁参照

- ・I は基本方針である。生徒・教職員それぞれが WIN-WIN の関係を目指していきたい。安全、安心
の学習環境整備から生徒の進路実現につなげていけるように努めていきたい。
- ・II は重点目標を実現していくための具体的な取り組みについて
 - 1：校舎等で若干の老朽化も進んでいるが、まずは、(1) では施設管理を含む危機管理の徹底。
(4) では、通級指導を含む生徒のための安心して学べる環境づくりがポイントとなる
 - 2：(2) にあるように協働的な学び本校の強みであるため、地域との連携についても今後とも皆
様にお世話になりたい。
 - 3：キャリア教育というのは進学・就職とったものだけでなく、生徒の心の成長、社会的自立を含
めて特別活動を通じて一歩ずつ育んでいきたいと思います。
 - 4：校内「魅力化プロジェクト委員会」も議論のたたき台を作るべく、今年度もこれから始動して
いく。広報活動についてはこの後、改めて報告させていただく。
 - 5：教職員のライフワークバランスを図ることは学校としての組織力向上につながるため、働く環
境の向上に努めていく。

《質疑》

【若園会長】ICT 機器の活用について、授業での端末の利用や教職員の採点業務などでの使用は行われているのか。

【吉成委員】生徒1人1台は実現しているのか。

【小島校長】生徒1人1台体制になっており、授業中の使用だけでなく、持ち帰りでの使用も可能になっている。先日も業者による工事も行われ、整備が進んでいる。また、教職員の採点業務への導入はソフトなどの関係からもこれから今後検討していく。

【若園会長】ICT の活用は学校の在り方にも大きく影響を与えるツールでもあるので今後の活用に期待したい。

【荒井和委員】通級指導が馬頭高校で実現できたのは大変うれしい。困っている保護者もいると思うので積極的な広報をお願いしたい。

【小島校長】「広報なかがわ」6月号の「馬頭高校の今」に通級指導を含めた本校の体制についても記事にしてもらった。今後も広報に努めていきたい。

【吉成委員】那珂川町地域学校協働本部と校内「魅力化プロジェクト委員会」をどう結び付けていくかが、今後のカギとなる。今日お集りの委員の皆さんも、馬頭高校生の進路実現に協力できるだろうし、それをつなぐのが協働本部である。町としても協力を惜しまないつもりだ。

【若園会長】動き出したばかりの「魅力化プロジェクト委員会」の検討内容なども今後の学校運営協議会でも発表してほしい。

【岡 委員】「馬頭高校で学んでよかったと思える学校」「生徒の夢を見出し、夢を志へと高め、その実現に向け全力でサポートする教職員」というのはとてもいい言葉だ。

【小島校長】この理想に向けて頑張っていきたい。

【岡 委員】教育は簡単なことではないと思うが、教職員の皆様にはよろしくをお願いしたい。

(4) 馬頭高等学校入学者の状況及び学校の教育活動の概要【教頭説明】

○資料 10 頁参照

- ・入試状況としては、2に充足率は令和3年に75.2%、令和4年に38.1%、令和5年度に50.5%と変遷しており、直近の2年間は充足率2/3を超えていない状況にある。
- ・参考：今年度の1日体験学習の申込状況だが、現況では普通科55名、水産科40名となっている。地元中学校からの申込がまだなので、もう少し増える可能性がある。
- ・教育活動は写真を並べているが、企業説明会や就職セミナー、職人のつどい等、就職関連行事が充実しているのが本校の特徴だ。
- ・那珂川町の『広報「なかがわ」』には毎月「馬頭高校は今」という記事を載せてもらっている。2月号で取り上げている修学旅行の日付は12月を1月に修正お願いしたい。最新6月号ではインクルーシブ教育、福祉的な支援体制の充実ということで、通級指導やSSW r、SCについて記述している。
- ・新聞記事としては、レスリング・水産科カヌー実習、ナカスイ関連があり、最後は益子町議の議会だより、下野新聞では那珂川町が馬頭高校存続要望書提出についてである。(1時間1分)

《質疑》

【渡辺委員】入試状況について、令和5年度普通科一般選抜の数字は正しいのか。

【青木教頭】志願者数の33人は23人の間違いである。訂正する。

【渡辺委員】同じ令和5年水産科特色選抜の2.00倍はすごい。

【若園会長】昨年度は落ち込んだが、回復傾向にあるので積極的にPRし続けるべきだ。(1時間8分)

(5) 令和5年度魅力化プロジェクト重点目標と取り組み課題について

○資料25頁参照

- ・「重点目標」とあるが、これは学校魅力化に特化した意味である。
- ・校内「魅力化プロジェクト委員会」はこれから本格始動するので、本日の説明はたたき台である。
- ・重点目標1「内なる広報」としては、今、預かっている生徒の皆さんの自己実現をどう図っていくか、という目標のことである。
- ・重点目標2「外向きな広報」では、どう本校の魅力を発信していくかということ。1日体験学習や学校HPも積極的な広報ができるように積極的にリニューアルしているところだ。学校案内に加え、クリアファイル・リーフレットも作り、各中学校訪問も今年度中に複数回実施したいと考えている。
- ・昨年度実施した馬頭中学生による本校見学会(仮：オープンスクール)が好評だったため、本年度は小川中にも声がけし、両校と実施したいと考えている。
- ・水産科は全国募集をしている。遠方からの生徒もいるので、生活環境の安定化にも是非、皆様のご協力をお願いしたい。

《質疑》

【塩澤委員】遠方から入学した高校生向けの下宿、宿泊施設はありますか。

【青木教頭】現在、下宿している生徒が2～3名、独り暮らしが1名、一家転住という形の生徒が2名いる。

【小島校長】県外からもどんどん来てください。と言える状況ではない。

【深澤委員】那珂川町としても高校生には通学、下宿支援をしているところだ。下宿先の斡旋はなかなか難しい。今日は「なかがわ暮らし係長」も来ている。空き家は結構あるので一家転住はお勧めできるので、今後、学校と連携しながら町としても情報発信していきたい。

【塩澤委員】高校の情報発信と同時に下宿、宿泊施設についても紹介できればいいが。

【深澤委員】下宿となると食事の提供もあるのでなかなか確保は難しい。

【若園会長】無理だとは思いますが、入学後4月、一月間は那珂川町に来て住むところを探す期間として認めるといったような、思い切ったいろいろなアイデアを出していく必要もあるかと思う。

【荒井和委員】最後になるが、通級指導の開始など魅力の多い馬頭高校なので交通の便など課題は多いが、情報発信を強化することでまだまだ、発展の余地はあると思う。

【小島校長】レスリング部の深澤君も本校の広報には貢献してもらっている。レスリングが盛んなのは足利、そしてさくら市だ。さくら市周辺の中学生在が馬頭まで来てくれればとも思う。

7 その他【教頭】

〔事務連絡〕次回は10月の初旬を予定している。

8 閉会【教頭】